

講義概要

SYLLABUS

2025 年度

鍼灸科

1

年次

【 基礎分野 】

生物学

倫理学

生化学

心理学

英 語

スポーツ科学

栄養学

【 専門基礎分野 】

解剖生理学Ⅰ

解剖生理学Ⅱ

解剖生理学Ⅲ

解剖生理学Ⅳ

衛生学Ⅰ

臨床医学総論Ⅰ

【 専門分野 】

東洋医学概論

経絡経穴概論

生体観察

はり・きゅう基礎実技

はりきゅう応用実技Ⅰ

臨床実習Ⅰ

あはき史

学校法人エイジェック学園



スポーツ健康医療専門学校

[授業科目]

生 物 学

1 学年

[基本情報]

担当教員	松澤 孝司	単位数	2	時間数	30
実務経験 /関連資格	はり師・きゅう師の資格を有する教員が生物学を担当する。				
開講学期	前 期	---	授業形態	講 義	---

[授業目標]

専門的な生体の構造、機能と調節を理解をするために、それにつながる循環器、呼吸器、血液、リンパ、消化と吸収の構造、機能と調節についての生物学の基礎的知識を修得する。

[評価方法]

出席日数、授業態度、単位認定試験及び小テスト等の結果をもって判定する。 なお、全授業数の1/3以上の欠席があった場合、学期末試験の受験は認めない。
--

[教科書]

[参考書]

配布プリント	公益社団法人東洋療法学校協会編『解剖生理』
--------	-----------------------

[履修の条件・留意点]

特になし

授業計画 ;回数/講義内容/形式

1 回	ガイダンス、人体の構成(細胞膜、細胞小器官、細胞分裂)	講義
2 回	人体の構成(遺伝子と遺伝子発現、細胞の死)	講義
3 回	人体の構成(体液の性質、恒常性、pH の調節)	講義
4 回	人体の構成(物質の移動)	講義
5 回	人体の構成(組織と器官)	講義
6 回	血 液(血液とその成分、赤血球、止血)	講義
7 回	血 液(白血球、生体防御機構)	講義
8 回	循 環(心臓血管系、動脈と静脈、心臓)	講義
9 回	循 環(心周期、血管、血圧)	講義
10 回	呼 吸(呼吸器系の構造と機能)	講義
11 回	呼 吸(ガス運搬、酸素と二酸化炭素の運搬)	講義
12 回	消化と吸収(消化器系の構造)	講義
13 回	消化と吸収(各種栄養素の消化と吸収、代謝)	講義
14 回	理解度確認	講義
15 回	まとめと解説	試験/講義

[授業科目]

倫 理 学(コミュニケーション含む)

1 学年

[基本情報]

担当教員	萩 名子	単位数	2	時間数	30
実務経験 /関連資格					
開講学期	前 期	---	授業形態	講 義	---

[授業目標]

・医療面接技法、リスニングスキル、アサーションスキルを身につけ、生活に活かすことができる。
・様々な社会課題に対し、医療人として考え、行動できる。チーム対話できる。

[評価方法]

全授業数の1/3以上の欠席があった場合、学期末試験の受験は認めない。
授業参加度 20%、単位認定試験 80%の総合判定による。

[教科書]

[参考書]

配布プリント	随時提示する
--------	--------

[履修の条件・留意点]

アクティブラーニングを中心とした活動を行うので、積極的な参加を望む

授業計画 ;回数/講義内容/形式

1回	倫理学ガイダンスー倫理学とは・会話と対話	講義
2回	鍼灸師と倫理	講義
3回	医療とホスピタリティマインド・インフォームドコンセント	講義
4回	患者さんとのコミュニケーション1 リスニングとアサーション・ダブルリスニング	講義
5回	患者さんとのコミュニケーション2 説明する力ー分かりやすい文章作成	講義
6回	患者さんとのコミュニケーション3 医療面接技法	講義
7回	患者さんとのコミュニケーション4 患者さんの世界と動機づけ	講義
8回	課題1 ー ハラスメント	講義
9回	課題2 ー LGBTQ	講義
10回	課題3 ー 臓器移植	講義
11回	課題4 ー 最新医療・AIとロボット	講義
12回	課題5 ー 安楽死	講義
13回	課題6 ー 災害と医療倫理	講義
14回	医療人としての日常行動と自己調整	講義
15回	到達度確認	試験/講義

[授業科目]

生 化 学

1 学年

[基本情報]

担当教員	柳平 悦子	単位数	2	時間数	30
実務経験 /関連資格	長年、高校教員として生物、化学、物理を担当し、生体内における代謝、化学変化を理解してもらい、生理学の基礎として十分な理解力を養わせる。				
開講学期	前 期		授業形態	講 義	---

[授業目標]

ヒトに関する科学を理解する上で基本となる物質の化学変化を理解する。
また、2年次以降の教科につながる応用力を念頭に置いて、はり師きゅう師に必要な基礎知識を養うことを目標とする。

[評価方法]

出席日数、授業態度、単位認定試験及び小テスト等の結果をもって判定する。
なお、全授業数の1/3以上の欠席があった場合、学期末試験の受験は認めない。

[教科書]

[参考書]

プリント配布	コンパクト生化学
--------	----------

[履修の条件・留意点]

随時、プリントを配ります。当日、必ず受け取ること。

授業計画 ;回数/講義内容/形式

1 回	概論(電解質と非電解質、無機化合物と有機化合物)	講義
2 回	原子の構造、結合様式	講義
3 回	式量、モル濃度	講義
4 回	酸と塩基	講義
5 回	水素イオン濃度とpH	講義
6 回	有機化学(脂肪族、芳香族)	講義
7 回	飽和炭化水素(アルカン)	講義
8 回	不飽和炭化水素(アルケン、アルキン)	講義
9 回	アルコールの酸化、アルデヒド、カルボン酸	講義
10 回	3価アルコール、グリセリン(グリセロール)	講義
11 回	エーテル ケトン カルボン酸(脂肪酸)	講義
12 回	エステル トリグリセリド	講義
13 回	芳香族 カテコール	講義
14 回	タンパク質 アミノ酸と糖質	講義
15 回	到達度確認	試験/講義

[授業科目]

心 理 学

1 学年

[基本情報]

担当教員	関 修		単位数	2	時間数	30
実務経験 /関連資格	専門学校で心理学を専門に担当されている講師が、人間の心理的機能やそれらを表現する方法について事例を示しながら、自分や他人の心理を理解・共有する方法を教授する。					
開講学期	---	後 期	授業形態	講 義	---	

[授業目標]

心理学は精神や行動を研究する学問であるが、着眼点や研究方法によって、様々な領域に分けることができる。この授業では、人間の心理的機能やそれらを表現する方法についての知識を得ながら、自分や他人の心理を理解・共有する方法の理解を目指す。具体的には次の2点を目標とする。 ○カウンセリングの問題点を学ぶことで鍼灸治療の倫理の問題に配慮できるようにする。 ○ユングの心理学に東洋的な側面(類型論)があることを理解する。
--

[評価方法]

単位認定試験と授業内課題の総合(合算)判定による。 全授業数の1/3以上の欠席があった場合、学期末試験の受験は認めない。

[教科書]

[参考書]

特に定めない。	テーマごとに授業中に随時紹介する。
---------	-------------------

[履修の条件・留意点]

知識提供と体験を織り交ぜながら心理学を理解出来るようにしていきたい。

授業計画 ;回数/講義内容/形式

1回	授業の内容や進め方の説明	講義
2回	心理学の誕生Ⅰ 哲学との関係	講義
3回	心理学の誕生Ⅱ 精神医学との関係	講義
4回	神経症と精神病	講義
5回	実験心理学と臨床心理学	講義
6回	フロイトⅠ 催眠療法からの出発	講義
7回	フロイトⅡ 無意識の発見	講義
8回	フロイトⅢ 夢と自由連想法	講義
9回	フロイトⅣ 精神分析の倫理	講義
10回	ユングⅠ 集合無意識	講義
11回	ユングⅡ 箱庭療法	講義
12回	ラカンⅠ 鏡像段階説	講義
13回	ラカンⅡ 三界理論	講義
14回	ラカンⅢ カウンセリングの問題	講義
15回	到達度確認	試験/講義

[授業科目]

英 語

1 学年

[基本情報]

担当教員	関 修		単位数	2	時間数	30
実務経験 /関連資格	大学で英語を専門に担当されている講師が、医療現場に必要なコミュニケーションを英語で取るための基礎力を養うことに重点を置き、表現する力を修得させる。					
開講学期	---	後 期	授業形態	講 義	---	

[授業目標]

英語と日本語の構造の違いを理解し、英語という言葉の文法を習得することでどのような文章も五文型のどれに当てはまるかわかるようになること。そして、辞書等を用いて、どのような文章も読めるようになること。英語の医療専門用語がどのような語源から生じ、他の語とどのような関係性を持つかを理解し、一つの単語から多くの語を連想することができるようになること。

[評価方法]

平常点(出席、授業での出来)70%、最終試験 30%

[教科書]

[参考書]

やさしい医療英語(Medical English Clinic)
センゲージラーニング出版

・特に定めない。

[履修の条件・留意点]

辞書を持参して欲しいです。紙でも電子辞書でも構いません。
試験でも用いますので。

授業計画 ;回数/講義内容/形式

1回	ガイダンス 授業の進め方について	講義
2回	unit1 初 診	講義
3回	unit2 診察室にて	講義
4回	unit3 インフルエンザの症状	講義
5回	unit4 痛みの問題	講義
6回	unit5 胃 痛	講義
7回	unit6 腹 痛	講義
8回	unit7 尿検査	講義
9回	unit8 コレステロール	講義
10回	unit9 貧 血	講義
11回	unit10 怪 我	講義
12回	unit11 手術の時期	講義
13回	unit12 アルコール中毒	講義
14回	unit13 超音波検査	講義
15回	到達度確認	試験/講義

[授業科目]

スポーツ科学

1 学年

[基本情報]

担当教員	大屋 研志朗	単位数	2	時間数	30
実務経験 /関連資格	様々なアスレティックトレーナー養成校で教鞭を取りながら、大学スポーツでトレーナーとして活動している教員が				
開講学期	---	後 期	授業形態	講 義	---

[授業目標]

生理学・解剖学の知識を用い競技者へのトレーニング指導及び・高齢者への運動療法の指導など地域医療の担い手となれる鍼灸師の育成を図る。

[評価方法]

単位の認定は出席日数・授業態度、単位認定試験の結果をもって判定する。 なお、全授業の 1/3 以上の欠席があったものは学年末試験の受験は認めない。
--

[教科書]

[参考書]

配布プリント	・トレーニング指導者テキスト 実践編・改訂版 ・トレーニング指導者テキスト 理論編・改訂版
--------	--

[履修の条件・留意点]

私語などほかの学生に迷惑をかける行為は禁止とする。 ストレッチ・トレーニングは誤った使い方をすれば重大な事故を招くことを十分に留意する。

授業計画 ;回数/講義内容/形式

1 回	オリエンテーション・体力学総論	講義
2 回	トレーニング指導者の役割	講義
3 回	トレーニング計画の立案(総論)	講義
4 回	筋力トレーニングのプログラム作成	講義
5 回	パワー向上トレーニングの理論とプログラム作成	講義
6 回	有酸素性及び無酸素性持久力向上トレーニングの理論とプログラム作成	講義
7 回	スピード向上トレーニングの理論とプログラム作成	講義
8 回	ウォームアップ、クールダウン、柔軟性向上のプログラムの理論とプログラム作成	講義
9 回	特別な対象のためのトレーニングとプログラム	講義
10 回	傷害の受傷から復帰までのトレーニングとプログラム	講義
11 回	トレーニング効果の測定と評価の実際	講義
12 回	測定データの活用とフィードバックの実際	講義
13 回	トレーニングの運営	講義
14 回	運動指導のための情報収集と活用	講義
15 回	到達度確認	試験/講義

2025 年度

[分 野] 基 礎

/科学的思考の基盤/人間と生活

[授業科目]

栄 養 学

1 学年

[基本情報]

担当教員	柳平 悦子	単位数	2	時間数	30
実務経験 /関連資格	長年、高校教員として生物、化学、物理を担当した経験をもつ教員がヒトの生体内における化学変化と運動、さらに栄養との関連について指導する。				
開講学期	---	後 期	授業形態	講 義	---

[授業目標]

私たちは健康を維持するために適度な運動と休息、そして必要な栄養素を過不足なく摂取することが不可欠であり、多くの疾病は栄養と密接に関係していると言える。ついては、健康づくりのための運動刺激を踏まえ、一般人の健康増進への活用を目標とする。又、スポーツ選手の競技力向上に貢献できる身体づくりを考察する。

[評価方法]

出席日数、授業態度、単位認定試験及び小テスト等の結果をもって判定する。
なお、全授業数の1/3以上の欠席があった場合、学期末試験の受験は認めない。

[教科書]

[参考書]

『コンパクト栄養学』(株)南江堂 廣野治子著他

特になし

[履修の条件・留意点]

特になし

授業計画 ;回数/講義内容/形式

1回	栄養とは・栄養学概論 (三大栄養素)	講義
2回	五大栄養素 (ビタミン・ミネラルとは)	講義
3回	運動と栄養1 (基礎理論 タンパク質)	講義
4回	運動と栄養2 スポーツ選手の競技力向上と栄養 (タンパク質とアミノ酸)	講義
5回	運動と栄養3 一般人の健康増進と栄養(エネルギーの指標、栄養素の指標)	講義
6回	運動と栄養3 脂質とは (中性脂質と極性脂質)	講義
7回	運動と栄養3 脂肪酸の種類 (必須脂肪酸)	講義
8回	運動と栄養3 糖質の化学 (グルコース、フルクトースなど単糖類)	講義
9回	運動と栄養3 二糖類、多糖類 (デンプンとグリコーゲン)	講義
10回	運動と栄養3 ビタミンの種類 (水溶性ビタミンと脂溶性ビタミン)	講義
11回	運動と栄養3 ビタミンとミネラルの欠乏症	講義
12回	運動と栄養3 食物繊維、水、核酸(DNA と RNA)	講義
13回	運動と栄養3 栄養所要量、健康づくりのための運動指針	講義
14回	運動と栄養4 生活習慣病の予防、肥満対策(摂取エネルギーと消費エネルギー)	講義
15回	到達度確認	試験/講義

2025 年度

[分 野] 専門基礎

/人体の構造と機能

[授業科目]

解剖生理学 I**1 学年**

[基本情報]

担当教員	木原 和彦		単位数	3	時間数	60
実務経験 /関連資格	臨床経験有り/あん摩マッサージ指圧師、はり師きゅう師、柔道整復師の資格を有する教員が指導する。					
開講学期	前 期	後 期	授業形態	講 義	---	

[授業目標]

東洋医学の基礎となる人体の正常基本構造およびその機能について1年間学ぶ。
人体を構成する諸機関の肉眼的および顕微鏡的形態と構造、また、それぞれの機能的相互関係を理解する。

[到達目標]

- ①. 解剖学用語を説明できる。
- ②. 細胞の基本構造と各種組織を説明できる。
- ③. 骨の概要と全身の主な骨の名称を説明できる。
- ④. 筋の概要と全身の主な骨格筋の名称を説明できる。

[評価方法]

☒定期試験 ☐実技試験 ☐実習評価 ☐小テスト ☐レポート ☐その他(中間試験)
定期試験のみで評価する。※運動器系のうち前期:骨格器系(100点満点)と後期:筋系(100点満点)の総合評価により判定する。
なお、全授業の1/3以上の欠席があったものは学年末試験の受験は認めない。

[準備学習/学習のアドバイス]

各回共通 ※事前にレジメは配布する。
・予習:教科書の該当する箇所、レジメを事前に読んでくること
・復習:前回の授業で使用したレジメにまとめられている内容を自分の言葉で説明できるように復習すること。特に資料(レジメ)の括弧内に書き込んだ用語が理解できているかを確認すること。
★特別の理由を除き、遅刻・欠席は厳禁。
【自己学習(準備学習)に必要な時間】1時限あたり 予習:60分、復習:60分

[教科書]

[参考書]

東洋療法学校協会編教科書 解剖生理学
内田さえ、鍵谷方子、原田晃、原田彰宏著

特になし

[履修の条件・留意点]

1. 平素の授業態度により単位未修得となることがあるので留意のこと
2. 講義の前に毎回、講義資料(レジメ)プリントによる事前学習を進めておくこと
3. 遅刻又は欠席は、減点の対象となるので留意のこと

授業計画 ;回数/講義内容/詳細

1回	第1章 細胞	細胞膜、細胞質と細胞小器官、遺伝子と遺伝子発現、細胞の死
2回	第1章 組織と器官	上皮組織、支持組織
3回	第1章 組織と器官	筋組織、神経組織
4回	第2章 運動器系とは	運動の仕組み、解剖学的用語、骨の構造と機能、関節の構造と機能
5回	第2章 全身の骨格	脊柱
6回	第2章 全身の骨格	胸郭
7回	第2章 全身の骨格	上肢の骨格
8回	第2章 全身の骨格	上肢の関節
9回	第2章 全身の骨格	下肢の骨
10回	第2章 全身の骨格	下肢の関節
11回	第2章 全身の骨格	脳頭蓋の骨
12回	第2章 全身の骨格	顔面頭蓋の骨
13回	第2章 全身の骨格	縫合と泉門
14回	第2章 全身の骨格	頭蓋の腔所
15回	人体の構成、全身の骨格	まとめ、到達度確認
16回	第2章 運動器系とは	骨格筋の構造と機能、筋収縮の機構、骨格筋の分類と補助装置
17回	第2章 全身の骨格筋	胸筋、横隔膜
18回	第2章 全身の骨格筋	腹筋群と崁径靱帯
19回	第2章 全身の骨格筋	背部の筋骨、盤底筋
20回	第2章 全身の骨格筋	上肢帯の筋
21回	第2章 全身の骨格筋	上腕の筋
22回	第2章 全身の骨格筋	前腕の筋
23回	第2章 全身の骨格筋	手の筋
24回	第2章 全身の骨格筋	下肢帯の筋
25回	第2章 全身の骨格筋	大腿の筋
26回	第2章 全身の骨格筋	下腿の筋
27回	第2章 全身の骨格筋	足の筋
28回	第2章 全身の骨格筋	頭頸部の筋
29回	第12章 局所解剖	体表解剖と主要な部位
30回	全身の骨格筋、局所解剖	まとめ、到達度確認

担当教員	大塩 くるみ	単位数	4	時間数	80
実務経験 /関連資格	臨床経験有り/はり師きゅう師の資格を有する教員が指導する。				
開講学期	前 期	後 期	授業形態	講 義	---

内臓の構造と機能について学習する。(第 7、8、9、10、11 章 ※第1章)

- ①. 呼吸器の構造、呼吸の仕組みと血液の働きについて説明できる。
- ②. 消化器の構造と機能、栄養と代謝について説明できる。
- ③. 泌尿器系の構成とそれぞれの役割について説明できる。
- ④. 内分泌系に属する器官とそれぞれから分泌されるホルモンの機能について説明できる。
- ⑤. 生殖器系の構造と男女差について説明できる。
- ⑥. 配偶子の発生のおくみと受精卵から人体ができるまでについて説明できる。
- ⑦. 体温調節のおくみについて説明できる。
- ⑧. 生体リズムと加齢変化について説明できる。

☒定期試験 ☐実技試験 ☐実習評価 ☐小テスト ☐レポート ☐その他(中間試験)

定期試験のみで評価する。

なお、全授業の 1/3 以上の欠席があったものは学年末試験の受験は認めない。

各回共通 ※事前にレジメは配布する。

・予習:教科書の該当する箇所、レジメを事前に読んでくこと

・復習:前回の授業で使用したレジメにまとめられている内容を自分の言葉で説明できるように復習すること。特に資料(レジメ)の括弧内に書き込んだ用語が理解できているかを確認すること。

★特別の理由を除き、遅刻・欠席は厳禁。

【自己学習(準備学習)に必要な時間】1 時限あたり 予習:60 分、復習:60 分

東洋療法学校協会編教科書 解剖生理学
内田さえ、鍵谷方子、原田晃、原田彰宏著

特になし

1. 平素の授業態度により単位未修得となることがあるので留意のこと
2. 講義の前に毎回、講義資料(レジメ)プリントによる事前学習を進めておくこと
3. 遅刻又は欠席は、減点の対象となるので留意のこと

授業計画 ;回数/講義内容/形式

1回	第7章 呼吸器系	呼吸と換気、気道(鼻腔、咽頭)の構造と機能
2回	第7章 呼吸器系	気道(気管、気管支)の構造と機能
3回	第7章 呼吸器系	肺の構造と機能、胸郭、胸膜と縦隔
4回	第7章 呼吸器系	呼吸筋と呼吸運動、呼吸機能の測定
5回	第6章 血液	血液とその成分
6回	第6章 血液	血液;止血機構と血液型
7回	第7章 呼吸器系	ガス交換、 $O_2 \cdot CO_2$ の運搬、呼吸の調節
8回	第6.7章 呼吸器系と血液	まとめ、理解度確認
9回	第8章 消化器系	消化器系とは、口腔の構造と機能
10回	第8章 消化器系	咽頭・食道・胃の構造と機能
11回	第8章 消化器系	小腸の構造と機能
12回	第8章 消化器系	大腸の構造と機能
13回	第8章 消化器系	肝臓の構造と機能
14回	第8章 消化器系	胆嚢・膵臓の構造と機能
15回	第8章 消化器系	腹膜と腹膜腔、食欲
16回	第8章 消化器系	消化腺まとめ、理解度確認
17回	第8章 代謝・栄養	代謝とは、糖質、脂質
18回	第8章 代謝・栄養	タンパク質、ビタミン、ミネラル
19回	第8章 代謝・栄養	まとめ、理解度確認
20回	第7.8章	到達度確認、整理
21回	第9章 泌尿器系	腎臓の構造
22回	第9章 泌尿器系	腎臓の機能
23回	第9章 泌尿器系	尿の生成 腎機能の測定 尿の組成
24回	第1章 人体の構成	体液と恒常性
25回	第9章 泌尿器系	体液 pH の調節
26回	第9章 泌尿器系	尿管、膀胱、尿道の構造と機能
27回	第9章 泌尿器系	膀胱と尿道の神経支配、蓄尿、排尿反射
28回	第9章 泌尿器系	まとめ、理解度確認
29回	第10章 内分泌系	内分泌系の総論、各論;視床下部と下垂体
30回	第10章 内分泌系	各論;甲状腺と副甲状腺、膵島、副腎
31回	第10章 内分泌系	各論;その他ホルモンと調節
32回	第10章 体温	体温
33回	第10章 内分泌系と体温	まとめ、理解度確認
34回	第11章 生殖	女性生殖器
35回	第11章 生殖	性周期
36回	第11章 生殖	男性生殖器
37回	第11章 生殖	妊娠と発生
38回	第11章 身体に加齢変化	生体のリズムと加齢変化、死
39回	第11章 生殖・身体に加齢変化	まとめ、理解度確認
40回	第9.10.11章	到達度確認、整理

2025 年度

[分 野] 専門基礎

/人体の構造と機能

[授業科目]

解剖生理学 III

1 学年

[基本情報]

担当教員	大塩 くるみ	単位数	3	時間数	60
実務経験 /関連資格	臨床経験有り/はり師きゅう師の資格を有する教員が指導する。				
開講学期	前 期	後 期	授業形態	講 義	---

[授業目標]

東洋医学の基礎となる人体の正常基本構造およびその機能について1年間学ぶ。
神経系及び感覚器の解剖生理について学習する。(第3章、第4章、第6章免疫)

[到達目標]

- ①. 神経系の分類を説明できる。中枢神経系の役割と主な末梢神経の名称と働きについて説明できる。
- ②. 体性感覚系と特殊感覚系(視・聴・平衡・嗅・味覚)の伝導路について説明できる。
- ③. 特殊感覚系(視・聴・平衡・嗅・味覚)の構造と機能(働き)について説明できる。
- ④. 免疫系に属する器官について説明できる。

[評価方法]

☒定期試験 ☐実技試験 ☐実習評価 ☐小テスト ☐レポート ☐その他(中間試験)

定期試験のみで評価する。

※運動器系のうち前期:骨格器系(100点満点)と後期:筋系(100点満点)の総合評価により判定する。

なお、全授業の1/3以上の欠席があったものは学年末試験の受験は認めない。

[準備学習/学習のアドバイス]

各回共通 ※事前にレジメは配布する。

・予習:教科書の該当する箇所、レジメを事前に読んでくること

・復習:前回の授業で使用したレジメにまとめられている内容を自分の言葉で説明できるように復習すること。特に資料(レジメ)の括弧内に書き込んだ用語が理解できているかを確認すること。

★特別の理由を除き、遅刻・欠席は厳禁。

【自己学習(準備学習)に必要な時間】1時限あたり 予習:60分、復習:60分

[教科書]

[参考書]

東洋療法学校協会編教科書 解剖生理学
内田さえ、鍵谷方子、原田晃、原田彰宏著

特になし

[履修の条件・留意点]

1. 平素の授業態度により単位未修得となることがあるので留意のこと
2. 講義の前に毎回、講義資料(レジメ)プリントによる事前学習を進めておくこと
3. 遅刻又は欠席は、減点の対象となるので留意のこと

授業計画 ;回数/講義内容/形式

1回	第3章 神経系	神経系と神経組織 ; 神経系の分類、神経組織
2回	第3章 神経系	神経系と神経組織 ; 神経細胞の興奮と伝導、シナプス伝達
3回	第3章 神経系	中枢神経系 ; 大脳
4回	第3章 神経系	中枢神経系 ; 間脳、脳幹
5回	第3章 神経系	中枢神経系 ; 小脳、脳波と睡眠
6回	第3章 神経系	中枢神経系 ; 脊髄、中枢神経系の保護と栄養
7回	第3章 神経系	運動性の下行路、感覚系の伝導路
8回	第3章 神経系	骨格筋の神経支配
9回	第3章 神経系	運動反射
10回	第3章 神経系	末梢神経系 ; 脳神経 (I - VI 脳神経)
11回	第3章 神経系	末梢神経系 ; 脳神経 (VII - XII 脳神経)
12回	第3章 神経系	末梢神経系 ; 脊髄神経 (総論、頸・腕神経叢)
13回	第3章 神経系	末梢神経系 ; 脳神経 (腰・仙骨神経叢)
14回	第3章 神経系	末梢神経系 ; 自律神経
15回	第3章 神経系	まとめ、到達度確認
16回	第4章 感覚器系	感覚の一般的性質
17回	第4章 感覚器系	視覚器の構造
18回	第4章 感覚器系	視覚器の機能
19回	第4章 感覚器系	耳の構造
20回	第4章 感覚器系	聴覚と聴力
21回	第4章 感覚器系	平衡覚の構造、平衡覚の機能・調節
22回	第4章 感覚器系	味覚、嗅覚の構造と機能、伝導路
23回	第4章 感覚器系	体性感覚と内臓感覚
24回	第4章 感覚器系	痛覚 ; 痛みの種類
25回	第4章 感覚器系	痛覚 ; 痛みの機序
26回	第4章 感覚器系	第4章のまとめ
27回	第6章 免疫	生体防御機構とは、免疫に働く白血球
28回	第6章 免疫	免疫に働く液性因子、様々な免疫応答
29回	第6章 免疫	第6章のまとめ
30回	第4.6章	到達度確認

担当教員	前川 秀朗		単位数	2	時間数	40
実務経験 /関連資格	臨床経験有り/はり師きゅう師の資格を有する教員が指導する。					
開講学期	前 期	後 期	授業形態	講 義	---	

東洋医学の基礎となる人体の正常基本構造およびその機能について 1 年間学ぶ。
循環器系の仕組みと働きについて学習する。(第5章)

- ①. 心臓の構造と機能を説明できる。
- ②. 血管系の機能と全身の主要な血管名について説明できる。
- ③. 血液のはたらきについて説明できる。(※解剖生理学Ⅱの範囲含む)

☒定期試験 ☐実技試験 ☐実習評価 ☐小テスト ☐レポート ☐その他(中間試験)
定期試験のみで評価する。
※運動器系のうち前期:骨格器系(100点満点)と後期:筋系(100点満点)の総合評価により判定する。
なお、全授業の 1/3 以上の欠席があったものは学年末試験の受験は認めない。

各回共通 ※事前にレジメは配布する。
・予習:教科書の該当する箇所、レジメを事前に読んでくること
・復習:前回の授業で使用したレジメにまとめられている内容を自分の言葉で説明できるように復習すること。特に資料(レジメ)の括弧内に書き込んだ用語が理解できているかを確認すること。
★特別の理由を除き、遅刻・欠席は厳禁。
【自己学習(準備学習)に必要な時間】1 時限あたり 予習:60 分、 復習:60 分

東洋療法学校協会編教科書 解剖生理学
内田さえ、鍵谷方子、原田晃、原田彰宏著

特になし

1. 平素の授業態度により単位未修得となることがあるので留意のこと
2. 講義の前に毎回、講義資料(レジメ)プリントによる事前学習を進めておくこと
3. 遅刻又は欠席は、減点の対象となるので留意のこと

授業計画 ;回数/講義内容/形式

1回	第5章 循環系	心臓血管系、動脈と静脈, 毛細血管
2回	第5章 循環系	心臓の構造、心筋の基本的性質、刺激伝導系
3回	第5章 循環系	心臓の活動と検査
4回	第5章 循環系	肺循環と体循環
5回	第5章 循環系	冠循環
6回	第5章 循環系	顔面と頸部の循環
7回	第5章 循環系	脳循環
8回	第5章 循環系	筋循環
9回	第5章 循環系	腹腔内循環(動脈系)
10回	第5章 循環系	腹腔内循環(静脈系)
11回	第5章 循環系	骨盤臓器と殿部の循環
12回	第5章 循環系	上肢の循環(動脈系)
13回	第5章 循環系	下肢の循環(動脈系)
14回	第5章 循環系	上・下肢の循環(静脈系)
15回	第5章 循環系	胎児の血液循環
16回	第5章 循環系	血圧と脈拍
17回	第5章 循環系	血圧の調節
18回	第5章 循環系	リンパ系
19回	第5章 循環系	要点整理
20回	第5章 循環器系	まとめ、到達度確認

[授業科目]

衛生学Ⅰ

1 学年

[基本情報]

担当教員	宮森 美香	単位数	2	時間数	40
実務/資格	臨床経験有り/はり師きゅう師の教員が指導する。				
開講学期	前 期	---	授業形態	講 義	---

[授業目標]

はり師きゅう師として活動する際、疾病予防や健康増進についての制度について熟知しておくことは、必須であると考えられる。本科目では、衛生学の意義について学習し、健康とライフスタイル、環境、産業保健、精神保健との関わりについて学習することとする。

[評価方法]

☒定期試験 ☐実技試験 ☐実習評価 ☐小テスト ☐レポート ☒その他(中間試験)

[教科書]

[参考書]

衛生学・公衆衛生学 第2版 (東洋療法学校協会編) 医歯薬出版

特になし

[履修の条件・留意点]

真摯な授業態度で受講して下さい。

授業計画 ;回数/講義内容/形式

1回	第1章 衛生学の歴史、各宣言・憲章・条約	講義
2回	第2章 健康の概要、疾病の自然史と疾病予防	講義
3回	第2章 健康管理活動ライン、集団検診	講義
4回	第2章 健康増進、喫煙、保健所	講義
5回	第2章 プライマリケア、国民医療費、脳死	講義
6回	第3章 食品と栄養、健康日本21の食生活指針	講義
7回	第3章 肥満の分類方法、ビタミン欠乏症	講義
8回	第3章 食中毒	講義
9回	第3章 運動と健康	講義
10回	1章～3章 まとめと解説	講義
11回	第4章 環境と健康(物理学的環境要因)	講義
12回	第4章 環境と健康(化学的環境要因)	講義
13回	第4章 環境と健康(生物学的環境要因)	講義
14回	第4章 環境と健康(各種公害)	講義
15回	第4章 環境と健康(地球規模の環境要因)	講義
16回	第4章 環境と健康(地球規模の環境要因の続き)	講義
17回	第5章 産業保健(意義、関連法規)	講義
18回	第5章 産業保健(労災、業務上疾病)	講義
19回	第6章 産業保健(業務上疾病の続き)	講義
20回	到達度確認	試験/講義

[授業科目]

臨床医学総論Ⅰ

1 学年

[基本情報]

担当教員	高野 弘仁	単位数	1	時間数	30
実務/資格	臨床経験有り/はり師きゅう師、柔道整復師の教員が指導する。				
開講学期	前 期	---	授業形態	講 義	---

[授業目標]

診断学、症候学は西洋医学の基本である。本講義では、西洋医学における患者の問診から診察・検査そして診断に至る過程とその意義について学ぶ。はり師きゅう師として必要な知識を軸に、臨床現場の実際についても講義する。よって、資格者として必要な基礎知識の取得とともに、多様な臨床医学の特性を理解することにある。各人が目指す医療従事者としての将来の方向性が提示されることを到達目標とする。

[評価方法]

☒定期試験 ☐実技試験 ☐実習評価 ☐小テスト ☐レポート ☐その他(中間試験)

[教科書]

東洋療法学校協会編「臨床医学各論」、「臨床医学総論」

[参考書]

医学教育出版「病態生理でできた内科学」

[履修の条件・留意点]

- ・臨床医学各論と重複する事が多い為、内容により省略したり話が何度も重複します。
- ・専門用語を覚えてもらう為に書く事が多くなります。

授業計画 ;回数/講義内容/形式

1回	診察についてⅠ.全身の診察法 1.顔 貌(1)	講義
2回	Ⅰ.全身の診察法 1.顔 貌(2) 2.歩 行(1)	講義
3回	2.歩 行(2)	講義
4回	3.姿 勢と体 位	講義
5回	4.体 格 5.体 型	講義
6回	6.栄 養 7.皮 膚・粘 膜(1)	講義
7回	7.皮 膚・粘 膜(2) ※診察～栄養迄の確認(小テスト)	講義
8回	7.皮 膚・粘 膜(3)	講義
9回	8.体 温(1)	講義
10回	8.体 温(2) 9.脈 拍(1)	講義
11回	9.脈 拍(2)	講義
12回	10.呼 吸	講義
13回	11.血 圧(1)	講義
14回	11.血 圧(2)	講義
15回	到達度確認	試験/講義

2025 年度

[分 野] 専 門

/基礎はり学・基礎きゅう学

[授業科目]

東 洋 医 学 概 論

1 学年

[基本情報]

担当教員	長谷川 聡		単位数	4	時間数	80
実務/資格	臨床経験有り/あん摩マッサージ指圧師、はり師きゅう師の教員が指導する。					
開講学期	前 期	後 期	授業形態	講 義	---	

[授業目標]

東洋医学の基礎となる、思考や歴史を学ぶとともに、東洋医学における人体の考えかたを学んでいく。東洋の考え方を理解し、人の身体がどのような状態になっているかを東洋医学的に把握できる診断と治療の基礎を学んでいく。ストレスから生じる病などについても東洋医学を使って理解していく。

[評価方法]

単位認定試験と小テスト、授業態度での参加度によって行う。

[教科書]

[参考書]

「東洋医学概論（東洋療法学校協会編）」 医道の日本

特になし

[履修の条件・留意点]

特になし

授業計画 ;回数/講義内容/形式

1回	東洋医学の歴史	21回	四診	講義
2回	古代九鍼	22回	四診	講義
3回	陰陽・五行論	23回	四診	講義
4回	気血津液	24回	四診	講義
5回	気血津液	25回	四診	講義
6回	気血津液	26回	四診	講義
7回	気血津液	27回	四診	講義
8回	気血津液	28回	四診	講義
9回	蔵象	29回	四診	講義
10回	蔵象	30回	四診	講義
11回	蔵象	31回	弁証	講義
12回	蔵象	32回	弁証	講義
13回	蔵象	33回	弁証	講義
14回	臓腑の相互関係	34回	弁証	講義
15回	経絡	35回	論治	講義
16回	経絡	36回	論治	講義
17回	経絡	37回	論治	講義
18回	病因	38回	論治	講義
19回	病因	39回	弁証トレーニング	講義
20回	到達度確認	40回	到達度確認	試験/講義

[授業科目]

経 絡 経 穴 概 論

1 学年

[基本情報]

担当教員	石 井 彩		単位数	4	時間数	80
実務/資格	臨床経験有り/はり師きゅう師の教員が指導する。					
開講学期	前 期	後 期	授業形態	講 義	---	

[授業目標]

鍼灸治療の基本となる経絡経穴(正経十二経脈・督脈・任脈・奇穴で学習する穴数 393 穴)について学習する。 骨度法・経脈の流注・所属の経穴の名称及び部位について理解することを目標とする。
--

[評価方法]

☒ 定期試験 ☐ 実技試験 ☐ 実習評価 ☒ 小テスト ☐ レポート ☒ その他(中間試験)

[教科書]

[参考書]

「新版 経絡経穴概論 (東洋療法学校協会 ほか編)」 医道の日本社	特になし
-----------------------------------	------

[履修の条件・留意点]

欠席すると授業に遅れる事になります。

授業計画 ;回数/講義内容/形式

1回	経絡・経穴の誕生、経絡の概要	21回	手厥陰心包経、手少陽三焦経	講義
2回	正経十二経脈と奇経八脈	22回	足少陽胆経①	講義
3回	同身寸法と骨度法	23回	足少陽胆経②	講義
4回	督脈①	24回	足厥陰肝経①	講義
5回	督脈②	25回	奇 穴	講義
6回	任脈①	26回	要穴の概略(五俞穴・五行穴など)	講義
7回	任脈②	27回	奇経八脈(八宗穴)	講義
8回	手太陰肺経、手陽明大腸経①	28回	経穴の概念と現代科学的研究	講義
9回	手陽明大腸経②	29回	部 位(骨度)	講義
10回	足陽明胃経①	30回	部 位(手)	講義
11回	足陽明胃経②	31回	部 位(足)	講義
12回	足陽明胃経③	32回	部 位(背部)	講義
13回	足太陰脾経①	33回	部 位(腹部)	講義
14回	足太陰脾経②、手少陰心経	34回	部 位(肩)	講義
15回	手太陽小腸経①	35回	部 位(頸)	講義
16回	足太陽膀胱経①	36回	部 位(頭)	講義
17回	足太陽膀胱経① 足太陽膀胱経②	37回	部 位(顔)	講義
18回	足太陽膀胱経③	38回	部 位(要穴)	講義
19回	足少陰腎経①	39回	部 位(その他)	講義
20回	到達度確認	40回	到達度確認	試験/講義

[授業科目]

生 体 観 察

1 学年

[基本情報]

担当教員	岡野 亜希子	単位数	1	時間数	30
実務/資格	臨床経験有り/はり師きゅう師の教員が指導する。				
開講学期	---	後 期	授業形態	講 義	---

[授業目標]

生態観察とは、目で観察したり、手で触れたりして調べるもので、東洋医学の診察法である四診（望診・聞診・問診・切診）を用いて、生体観察が行えるようにすることを目標とする。

[評価方法]

単位認定試験授業態度での参加度によって行う。

[教科書]

[参考書]

「東洋医学概論 経絡経穴概論（東洋療法学校協会編）」 医道の日本	特になし
----------------------------------	------

[履修の条件・留意点]

特になし

授業計画 ;回数/講義内容/形式

1回	ガイダンス、四診（望診・聞診・問診・切診）について	講義
2回	望 診について	講義
3回	望 診（舌 診）	講義
4回	聞 診について	講義
5回	問 診 ①	講義
6回	問 診 ②	講義
7回	切 診について	講義
8回	切 診（腹 診）	講義
9回	切 診（腹 診）	講義
10回	切 診（切 経）	講義
11回	切 診（経穴診）	講義
12回	切 診（脈 診）	講義
13回	切 診（脈 診）	講義
14回	四診合参	講義
15回	到達度確認	試験/講義

[授業科目]

はりきゅう基礎実技

1 学年

[基本情報]

担当教員	松澤 孝司		単位数	3	時間数	90
実務/資格	臨床経験有り/はり師きゅう師資格を有する教員が指導する。					
開講学期	前 期	後 期	授業形態	---	実 習	

[授業目標]

- ・実技道具・実技室の使用を通して、鍼灸師という治療家になるための態度・姿勢を理解することができる。
- ・鍼灸師としての衛生観を理解し、実践することができる。
- ・鍼灸師となるために、はり及びきゅうの基礎実技の重要性を理解し、その技術を修得できる。
- ・基礎実技の修得により、実際に経穴に施鍼・施灸をすることができる。
- ・古典(難経)を通じて、東洋的な考え方・治療観を理解することができる。
- ・難経69難を用いた六部定位脈診について理解し、脈診法及び治療を実践することができる。

[評価方法]

前・後期実技試験を基本とし、提出物・授業への参加度による総合評価とする。

[教科書]

[参考書]

はりきゅう実技〈基礎編〉

特になし

[履修の条件・留意点]

- ・皆さんの修得度合いにより授業内容は臨機応変に変更します。
- ・欠席すると授業に遅れることになります。休んだ場合は事前に前回の内容を確認すること。
- ・授業以外の時間にも個人練習が必要となります。

授業計画 ;回数/講義内容/形式

1 回	ガイダンス 実技道具確認 糠枕作成案内	実習
2 回	ガイダンス 鍼名称/鍼の長さ太さ/古代九鍼	実習
3 回	刺鍼の方法/押手と刺手/挿管法	実習
4 回	糠枕確認/片手挿管法練習/弾入切皮	実習
5 回	撚鍼法/トイレットペーパー配布	実習
6 回	灸の概要/艾炷作成方法・練習/片手挿管法・弾入切皮/ペーパー撚鍼	実習
7 回	撚鍼法確認/片手挿管法/艾炷作成練習	実習
8 回	鍼灸における過誤/片手挿管法・弾入切皮	実習
9 回	トイレットペーパー確認/浮きもの通し	実習
10 回	消毒法/廃棄物の処理法/艾炷作成練習	実習
11 回	撚鍼法確認/片手挿管法/艾炷作成練習	実習

12回	艾炷作成練習／灸の点火練習／自己切皮	実習
13回	自己切皮／相互切皮／灸の点火練習	実習
14回	相互切皮／灸の点火練習	実習
15回	自己刺鍼／灸の点火練習	実習
16回	刺鍼中の手技／灸の点火練習（紙上点火）	実習
17回	相互刺鍼／灸の点火練習／井穴への施灸	実習
18回	相互刺鍼／灸の点火練習／夏季宿題説明	実習
19回	灸の点火練習／相互刺鍼	実習
20回	灸の点火練習／相互刺鍼	実習
21回	実技試験実施要綱説明／実技練習	実習
22回	鍼灸実技練習	実習
23回	前期鍼実技 到達度確認	実習
24回	前期灸実技 到達度確認	実習
25回	灸の点火練習／相互刺鍼	実習
26回	灸の点火練習／相互刺鍼	実習
27回	灸の点火練習／相互刺鍼	実習
28回	灸の点火練習／相互刺鍼	実習
29回	難経入門／難経 42 難／鍼灸実技練習	実習
30回	難経39難／鍼灸実技練習	実習
31回	難経8難／鍼灸実技練習	実習
32回	難経 23 難／鍼灸実技練習	実習
33回	難経 1 難／鍼灸実技練習	実習
34回	難経 2 難／鍼灸実技練習	実習
35回	難経 18 難／鍼灸実技練習	実習
36回	難経 69 難／鍼灸実技練習	実習
37回	六部定位脈診入門／鍼灸実技練習	実習
38回	六部定位脈診入門／鍼灸実技練習	実習
39回	六部定位脈診入門／鍼灸実技練習	実習
40回	六部定位脈診入門／鍼灸実技練習	実習
41回	六部定位脈診入門／鍼灸実技練習	実習
42回	鍼灸実技練習	実習
43回	後期鍼実技 到達度確認	実習
44回	後期灸実技 到達度確認	実習
45回	1年間のまとめ	実習

担当教員	森 孝史	単位数	1	時間数	30
実務/資格	臨床経験有り/あん摩マッサージ指圧師、はり師きゅう師の教員が指導する。				
開講学期	---	後 期	授業形態	---	実 習

はりきゅう実技<基礎編>の P.47～ 5. 身体各部の刺鍼には 96 穴について解説してある。
 その中から各回取穴し、ステンレス鍼(寸 3-2・寸 6-2)を使用して刺鍼・施灸する。

- ・直刺、斜刺、横刺を実際に行うことができる。
- ・適切な深度と方向で刺入することができる。
- ・各穴の所属経、取穴体位・取穴について理解できる。

実技試験・出席日数・授業態度で評価し、評価点 60 点以上で単位認定とする。

はりきゅう実技<基礎編> 新版 経絡経穴概論 配布プリント

図解鍼灸臨床手技の実際 尾崎昭弘著

欠席すると授業に遅れることになりますので、欠席 1 回につき 5 点減点いたします。背中や腹部を相手に提供して頂きます。

授業計画 ;回数/講義内容

1 回	直・横・斜刺の練習(練習器/自分)	11 回	体幹背面② (背部)
2 回	上肢部①	12 回	体幹背面③ (腰仙部)
3 回	上肢部②	13 回	体幹背面 復習
4 回	上肢部③	14 回	実技試験 (直刺・斜刺・横刺)
5 回	上肢部 復習	15 回	体幹前面① (腹部)
6 回	下肢部①	16 回	体幹前面② (胸部)
7 回	下肢部②	17 回	頸部
8 回	下肢部③	18 回	頭部
9 回	下肢部 復習	19 回	顔面部
10 回	体幹背面① (上背部)	20 回	到達度確認

[授業科目]

臨 床 実 習 I

1 学年

[基本情報]

実習調整者 /担当者	松澤 孝司		単位数	1	時間数	45
実務/資格	臨床経験有り/はり師きゅう師の資格を有する教員が指導する。					
開講学期	前 期	後 期	授業形態	---	実 習	

[授業目標]

- ・スポーツ選手の間では、はりきゅうの利用が増加している。
- ・スポーツの現場において、トレーナーステーションを設け、緊迫した場面で、はり師きゅう師がどのようにスポーツ選手に対応しているかを見学する。それにより、コミュニケーションをはじめ、テーピング技術やストレッチの知識など、自分にとって必要な事柄について気付くことを目的とする。

[評価方法]

実習への出席と実習への取り組み状況、実技試験、実習ノートの提出、実習の振り返りにより総合的に評価する。

[履修の条件・留意点]

- ・現場では選手は必死にその日の競技に臨んでいる。諸君も実習には真摯な気持ちで臨むこと。
- ・スポーツの現場での状況により臨機応変な行動が必要になることがある。
- ・指導教員の指示に従うこと。
- ・下記の実習先のうち、必ず一人 6 回(計 45 時間)分の実習を選択し、出席しなければならない。

授業計画 ;回数/講義内容/形式

1	駒澤陸上競技場 陸上競技	18	千葉県スポーツセンター 陸上競技
2	駒澤陸上競技場 陸上競技	19	千葉県スポーツセンター 陸上競技
3	千葉県スポーツセンター 陸上競技	20	駒澤陸上競技場 陸上競技
4	千葉県スポーツセンター 陸上競技	21	駒澤陸上競技場 陸上競技
5	千葉県スポーツセンター 陸上競技	22	駒澤陸上競技場 陸上競技
6	千葉県武道館 柔道	23	東京武道館 柔道
7	東京都講道館 柔道	24	千葉県スポーツセンター 陸上競技
8	千葉県武道館 柔道	25	千葉県スポーツセンター 陸上競技
9	千葉県スポーツセンター 陸上競技	26	千葉県スポーツセンター 陸上競技
10	千葉県武道館 柔道	27	板橋区荒川河川敷 高校駅伝
11	千葉県スポーツセンター 陸上競技	28	千葉県武道館 柔道
12	駒澤陸上競技場 陸上競技	29	千葉県武道館 柔道
13	駒澤陸上競技場 陸上競技	30	千葉県武道館 柔道
14	駒澤陸上競技場 陸上競技	31	東京都講道館 柔道
15	駒澤陸上競技場 陸上競技	32	東京都武道館 柔道
16	駒澤陸上競技場 陸上競技	33	東京都講道館 柔道
17	江戸川陸上競技場 陸上競技	34	東京都講道館 柔道

[基本情報]

担当教員	石井 彩	単位数	1	時間数	20
実務/資格	臨床経験有り/はり師きゅう師の資格を有する教員が指導する。				
開講学期	前 期	---	授業形態	講 義	---

[授業目標]

古代から現在に至るまで、西洋と東洋において人々が「人体」と「病気」をどのように考え、どのような「治療」をしてきたのかを学ぶ(医学入門)。
--

[評価方法]

出席日数が基準を満たし、単位認定試験に合格することで単位認定とする。

[参考書]

[教科書]

プリント資料配布	特になし
----------	------

[履修の条件・留意点]

特になし

授業計画 ;回数/講義内容/形式

1回	授業の概要 四大文明と医学の発生、西洋医学史(古代ギリシア)	講義
2回	西洋医学史(古代ギリシア、ローマ、中世)1	講義
3回	西洋医学史(古代ギリシア、ローマ、中世)2	講義
4回	西洋医学史(17世紀～19世紀以降)1	講義
5回	西洋医学史(17世紀～19世紀以降)2	講義
6回	東洋医学について	講義
7回	東洋医学について(古代中国の病因論他)	講義
8回	東洋医学史(古代以前～古代)	講義
9回	東洋医学史(日本医療史 中世～近代)	講義
10回	到達度確認	試験/講義

